

# 春季彼岸会永代経法要

講師: 貴島 信行 先生

2026. 3. 20(金)

講題: 「歓喜のひかり」

本日はお天気も良く、思いがけず多くの方が遠近各地よりお参り下さいました。三世代でお参り下さる方、外国の方まで、ようこそこの御参詣でした。



皆さんと共に『仏説阿弥陀経』のおつとめをしました。

その後、院主さんからご挨拶。親鸞聖人の教行信証にて、「前(さき)に生まれんもの後(のち)を導き、後に生まれんひとは前を訪(とぶら)へ…」。とあります。前に生まれたものは後のものをお念仏の道へと導き、後から生まれたものは、前に生まれた方にみ教えを尋ねていきましょう…と教えてくださっています。春季彼岸会永代経法要はまさに阿弥陀さまと亡き方から私がいいただいたご縁と味わえますね。

礼讃文に「<sup>にんじん</sup>人身受け難し、今すでに受く。仏法聞き難し、今すでに聞く。」とあります。人としてこの世に生まれることは難しく、仏法に会うこともまた難しい。今、私が法要のご縁に遇えるのも、自分のちからだけではない。「わたし」は一人で生まれたわけではなく、一人で生きているわけでもありません。両親やご先祖、阿弥陀さま、多くの願いによって生かされていることをお聞かせくださいました。

親がいるところが帰るところ。私が還るところはどこでしょうか？「先人に訪へ」ですね。

お念仏を喜ばれた方がご往生なさる時、お念仏しながら目から涙。それは歡喜のお念仏でした。この方のご往生をご縁に、ご家族も手を合わされるようになったそうです。わたしたちも「先人に訪へ…」ながらご法縁に出会うことの出来る歡喜のひかりの中を歩ませていただきますようお願いくださったこの度の法要のご縁でした。



法要後には納骨堂の前でおつとめ。時間が合わない方も事前にお参りいただきました。お孫さんが来られたり有難いご縁でした。

